

広報
のみ

city public relations nomi

CONTENTS / 目次

- 2 国造ゆず後世に 34年ぶり植栽
- 3 わがまち自慢
- 6 市民と市政の歩み
 - ・株式会社スーパーホテルの進出が決定
 - ・死亡事故ゼロ 400日達成
 - ・タウンミーティングを開催します
 - ・能美市健康クラブ会員募集
- 8 平成31年度当初予算
- 14 市役所からのお知らせ
 - ・人間ドックの申請が始まります
 - ・子どもの医療費助成制度の窓口無料化対象を拡大します
 - ・任意予防接種の費用助成方法が変わります
 - ・特定不妊治療の助成率が2/3になります
 - ・いきいき安心医療費助成制度が見直されます
 - ・「のみバス」の一部運行改正の実施
 - ・石川県議会議員選挙
 - ・各種証明書の発行について
 - ・市役所の組織が4月1日から変わりますなど
- 23 納期カレンダー
- 24 4月30日～5月2日診療する医療機関
新天皇即位の日ならびに改元の日（5月1日）に婚姻届・出生届の戸籍届出特設窓口を開設します
- 25 10連休の休業案内（4月27日～5月6日）
5月2日に臨時窓口を開設します
- 26 情報ひろば
- 28 ホームページをリニューアル
有料広告を募集します
- 29 主要行事・イベント実施予定
 - ・ブレ九谷茶碗まつり
 - ・健康スマートウォーキング
 - ・のみバス無料運行利用キャンペーン
- 30 博物館建設、のみ古墳女子プロジェクト 進行中！／今月の手話
- 31 あんしん相談センターを設置します
- 32 まちのできごと
- 33 いしかわ動物園に行こう！
みんなの図書館
- 34 子育てに関する情報
- 35 相談・国際交流・ご寄附
- 36 九谷焼の世界に触れる

このまちがもっと好きになる

わがまち自慢

やま だ
File67 山田町「昔と変わらない景色が
安心を与えてくれる町」

能美市の北東に位置し、加賀産業開発道路から手取川沿いに、西へ向かって走ると見えてくる山田町。現在、77世帯229人が暮らしています。

かつて、川北町の山田先出とは一つの村であったと郷土史に記されており、今も川北町に親戚を持つ住民が多いことも特徴です。



水害記念碑は町会で大切に管理されています。記念碑周辺の桜が満開となる4月上旬には、桜を楽しむ人がたびたび見受けられます。

町の北側にある手取川水辺プラザは、ヘリポートをはじめ水害に備えた倉庫などが整備されています。芝生広場では手取川のダイナミックな風や音を体感することができ、散歩やウォーキングの人氣スポットとなっています。

昨年11月、町内の山本多津子さんが、22年にわたり民生委員児童委員として住民の安心に寄与したとして、藍綬褒章を受章されました。名誉ある章の受章に、「町としても誇らしい」と話すのは町会長の山本さん。

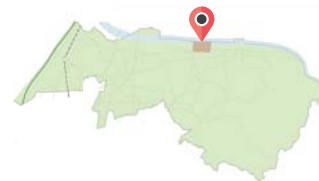
町のメインイベントである7月末のバーベキュー大会では、焼き肉や焼きそばを食べながら会話を楽しみます。この日は特にたくさん町民が集まるので、昨年はその場で防災に関するアンケートを配布。町民一人ひとりの防災意識の向上にも努めています。

美しい田園風景に囲まれた町を天気の良い日に歩くと、南東方向には霊峰白山が望めます。日が沈



山田町会長
やまもと かつひこ
山本 勝彦さん

山田町 - Yamada -



父親が、昭和九年の大洪水で流された田んぼの復興がとても大変だったとよく言っていたのが印象的で、「先祖が遺したものを守る」という気持ちは強いですと話す山本さん。

んでは、蛙や虫の音が町を包みます。「昔から変わらない景色が安心する。私は町のそういう所が好きなんです」と山本さん。

「時代の移り変わりで、行事、自然、無くなってしまうものもあるけれど、町民にも声を掛けながら、今あるものを大切にしていきたい」と、山本さんは、町づくりに対する想いを語りました。

NEWS

国造ゆず後世に
34年ぶり植栽

国造ゆず生産者と能美市国造地区ゆたかなくらし協議会が、国造ゆず産地を後世に継承するために、苗木の植樹を始めました。

植樹は、1985年に団地を造成して以来で、初日となる3月8日は、昨年度から国造ゆずの調べ学習を行っている和気小学校の5年生が参加し、生産者や関係者の指導のもと、苗木6本を植えこみました。今年はこの日の6本を含め、小ぶりで種なし品種の「多田錦」を50本以上植樹する計画です。植えたゆずは、約10年後からの収穫を目指しています。

植樹の後には児童らが生産者に国造ゆずの栽培や収穫の方法などについてインタビューしていました。



生産者や関係者から植え方を教わる児童たち

「世代間、住民間の交流を大切に つながりの場を作り出す町」

よしみつ
File69 吉光町

県内に唯一残る一里塚や寺井高校があることで知られる吉光町。この地には、奈良西大寺の末寺である西光寺が建っていたという歴史や、居住していた刀工・吉光の名が町名になったという伝承があります。現在、263世帯791人が暮らしています。



月に1回、公民館で開催される「いきいきサロン」の様子。体操や手芸の教室が開かれたり、お茶会を楽しんだりしています。

町内を歩くと、新しい家が目立ちます。「昔は30ほどだった世帯数が、約50年前の宅地造成で倍以上に増加。更に近年の造成でここまで家が増えました」と話すのは町会長の油さん。新しい家が増えたことで、子どもたちの笑い声が響くにぎやかな町になりました。一方で、中心部は昔からの集落で高齢化もしてきています。「町を存続していくためには、新旧の住民の交流をいかにしていくかが鍵です」と油さんは言います。町では住民の交流の機会が積極的に作られており、スポーツフェスティバルや夏祭りは多くの町民でにぎわいます。町内のバーベキューでは、新旧の住民が交わるようにテーブルを配置しているそうです。世代間交流だけでなく、以前から住む人たちが集う「いきいきサロン」も毎月活発に行われています。



吉光町会長
あぶら かずゆき
油 和之さん

吉光町 - Yoshimitsu -



町の仕事は継続して運営していくことができる仕組みづくりが重要だと思います。皆が豊かに暮らし続けられるように、そういったシステムを整備していきたいと話す油さん。

通学安全などを祈願します。また、神社の隣には公園の造成を計画中です。「用水の清掃や総会にも多くの若い住民が出てくれています。若い世代が子育てを頑張っている姿を見ると応援したくなります。公園が皆のコミュニティの場になれば」と目を細める油さんを見て、吉光町の明るい未来が自然と思い描かれました。

「町民交流を活発に行い 次世代につなぐ歴史ある町」

ゆのや
File68 湯屋町

加賀産業開発道路に向かって農地が連なり、白山カントリ倶楽部があるひとぶし山の麓に民家が建ち並ぶ湯屋町。辰口の温泉が湧き出る地域に暮らしていた方々が、この地に移り住んだことから、湯屋と名付けられたといわれています。この町には、現在109世帯241人が暮らしています。



湯屋チヨウツカ遺跡に眠る人を慰める聖観音像は、昭和63年に建立されました。墳墓群があった方角を見つめるように配置されています。

町内の南側丘陵地である辰口丘陵公園沿いには、13世紀〜14世紀にかけて造られた中世墳墓群「湯屋チヨウツカ遺跡」があり、北宋時代の中国の遺物などが発見されています。

北側の丘陵地には、飛鳥時代に使われた湯屋古窯跡があり、古くから窯業に適した土地で、明治〜昭和時代にかけて瓦焼業が盛んな地域だったことが偲べれます。

「うちの町の良いところは、ご近所同士の顔が見えて、みんながまとまりやすく、治安も良いことだ」と話す町会長の坂本さん。四季ごとの町内行事が盛んで、春には「さくらを見ながら歩こう会」、夏には子どもが松明を持つて、湯屋チヨウツカ遺跡に眠る人々を慰めるために建立された聖観音像を目指して、虫送りを行います。秋にはバス旅行、冬にはもちつき大会を開催しています。「毎回、多くの町民が参加している。今後も行事が継続できるようにしたい」



湯屋町会長
さかもと しげる
坂本 茂さん

湯屋町 - Yunoya -



「過去に大きな災害に見舞われたことがなく、暮らしやすい町だ」と坂本さんは話します。加賀産業開発道路沿いの商業施設に歩いていけるので、生活に便利な場所です。

と坂本さんは語ります。

町内では、これから新たな住宅建設が進む予定です。「子どもを連れてきて、より町がにぎやかになることを期待している。住民を受け入れる体制づくりに努めたい」と坂本さんは笑顔で話します。暮らしやすい環境と住民の絆づくりに努め、町の歴史がしっかりと受け継がれていると感じました。